

第2回神田警察通り周辺まちづくり検討部会 2020.2.5開催

① 住環境・コミュニティ

- 町会活動をホームページ等で公開しているが、反応する人は子育ての家庭の人か、企業からの問い合わせが多い。マンションの在り方に根本的な問題がある。特に多町二丁目では投資目的のマンションが多く、住民が増えても、マンションにコミュニティがなく地元と交わることが困難。神田に住まず神田で商売している人の方が地元意識が高い。
- 内神田2丁目の地区計画が神田駅西口再開発とバッティングしている。地区計画が実現できないから大規模な再開発となった。やはり大規模にやらないと有効に使えない。地区計画はもう無理だと思う。
- 町会はハードルが高いので、エリマネのようなゆるやかな組織があるといい。
- NPO組織やエリマネ団体ができても、元からいる人たちがコアにならないとまとまらない。町会がこれからどういう組織になっていくかが重要。
- 神田らしさとは何かという話がやはりある。神田のまちの成り立ちを考えると、大丸有のような大規模な再開発とは少し違うかもしれない。場所によって違う神田らしさをどのように明確化することができるかを、行政計画ではなくて、きめ細かくこういった場所で議論していくことが重要。
- 親と子供夫婦で住んでいる人がほぼ0%。昔は地元で育ち、親と同居して町会に入り、神田らしさを学校や地域で教わってきた。今住んでいる人が神田らしさを求めるのか。地域の活動に参加するかはマンション住民の自由。清掃活動などを通して、神田に対するプライドが育まれる。
- 電大の再開発には住居がなく、オフィス棟のみ。そういった再開発が進んでいることを念頭にマスタープランを考えてもらいたい。
- エレベーターがないと入居しないが、そのためにまた建て替えることは非常に難しい。
- 100-150坪くらいの中規模なビルにまとめ、共同で建てることに区がもっとかかわるべきだが、そういったことがないためデベロッパーに頼るしかない。
- コミュニティの問題はしっかり議論していくべき。神田全てを一発で語りきるのは難しい。大規模再開発、個別建替えなどがあり、見方や考え方が違うエリアの方々が集まって議論している。今日の資料のように千代田区全体や神田公園地域といった総括的なデータに基づいて神田らしさを議論すると、どの地域でも共通するような答えを出す意見しかでない。求められていることはもう少し小さい範囲での議論。6つのテーマで議論した後は、個別の3つのゾーンでまちの在り方を考えるべき。

神田の現状と課題

- ・新たな住宅は増え住民数は増加しつつもコミュニティは活性化してない
- ・神田で商売している人も地元意識は高い
- ・神田らしさは場所によって違う。ひとくくりでは語り切れない

まちづくりの視点

- ・神田に関わりのある人々が無理なく連携し、エリアでの活動・営みをつないでいくことが必要
- ・住民はもちろん、新たなコミュニティの担い手を育てることも必要
- ・場所ごとの特性を踏まえた将来像を描くことが必要

分野別のまちづくりの視点 第2回部会のまとめ

② 緑・水辺・広場

- 道路の一部がオープンテラスのようになっていても、お店のものを買わないと入れない事例もある。一般の人が活用しにくいようになっては本末転倒にある。緑が増えるのはいいが、誰でも入れるようなオープンスペースをつくってほしい。
- 広場の使い方がかなり整理されてきた。ソラシティの公開空地の使い方やワテラスの事例もある。どういう広場があるといいか、地元の要望がまとまり、開発側や行政に認知されていくとよいかと思う。
- 客観的にみれば緑はないが、路地で遊ぶのが普通のところもある。公園が無いことをネガティブに捉えるのはどうか。
- 自動車交通が主体となったことで、広場や公園が必要となったが、一方で道路を人の場にしていこうという動きもある。道路交通の話と合わせて広場も議論したらどうか。

神田の現状と課題

- ・新しい広場の事例が増えつつある中、その活用の仕方は議論の余地がある
- ・路地で遊んでいる実態があったり、道路を人の場にしていこうという動きもある

まちづくりの視点

- ・まちの人々のための屋外空間をより豊かなものにするための仕組みや手立てが必要
- ・公共空間、公開空地等それぞれの特性に合わせた使い方を検討することが必要

新型コロナを踏まえたこれからのまちづくりの視点



柔軟かつ多様な活用を前提としたパブリックスペースの必要性が高まっている

分野別のまちづくりの視点 第2回部会のまとめ

③ 道路・交通

- 靖国通りもずっと掃除を行っているが、1階にカフェなどができると立て看板が増える。歩きやすい空間をつくるためにはどうしたらいいのか、テナントへの周知も含めて考えていただきたい。
- 共立女子大学の北側の道路は、車を使っている人の割合よりも歩道を使っている人の割合が圧倒的に多いが、空間としては車の方が多い。歩きやすい空間、バリアフリーなどの観点からも改善してほしい。
- ニューヨークのタイムズスクエアが自動車道路を歩行者道路に切り替えた。車と人の利用数の割合と空間の量の割合をフェアにするべきという発想。そういう事例もある。利用実態とあわせて考えていくべき。
- 来訪者がどこからきているかを分析することで、動線としてどの通りを整備したらいいか、どの通りを歩行者優先とすればよいかもわかる。来訪者の視点も重要。
- 外堀通りは都道だが車椅子が通れないぐらい道が悪い。神田警察通りがよくなってもそこへ行く動線の道路が悪いと意味がない。窓口を区にして都へ話してもらえないか。
- 今は気づいた人が個別で相談に行く状況。窓口が一元化していない。地域の側で意思を作っていく場が必要になってきている。区も個別の部署では対応しきれないところもある。地元の意見をまとめ、決めていくような組織がいる。
- 歩きたくなるまちは「道路・交通のイメージ」の4点(歩車分離、南北に連続した歩行者空間、移動手段の多様化、駐車場等の最適化)がきいてくる。パーキングメータの話と歩道拡幅は裏腹になる。路上駐車の使用方を地区別に深掘りしておく必要があるのではないか。

神田の現状と課題

- ・歩く人にとって安全で快適な空間整備の重要性は高い

まちづくりの視点

- ・歩行者空間のさらなる拡充が必要

新型コロナを踏まえたこれからのまちづくりの視点



多様な移動手段の確保の観点から、歩行者、自転車、その他パーソナルモビリティの重要性が増している